

☆ 塾長の独り言 (PART 1) ☆

★ テスト直前の学習法

今月中旬から1学期最初の中間テストが始まります。最後の追い込みです。テスト直前の授業は、集中力がより高まるのでとても重要です。

前回のテスト結果を記入したカウンセリングシートに、今回の目標点を生徒と講師が相談して決めます。目標点を決めると、講師の指導もより具体的になってきます。

- この単元は絶対に点数をとらなければいけないところ
- この単元は今回のテストではあまり期待できないので捨てる
- この単元は80点以上をとるには必須のところ → 従って、直前まで何とかマスターさせる

というように、個人個人の目標を基に、最後の追い込みの学習内容を絞っていきます。それと、塾作成の対策プリントを絡ませて、現時点での本人にとっての最高点数をとれる指導をします。試験直前の1週間前のこの学習方法で、10点~20点くらいは違ってきます。

★ 個別での成績の上がり方

個別指導できめ細かい授業を行っても、生徒全員の成績をパーフェクトに上げることはできません。

大雑把に言いますと、成績を上げられる割合は、

- ①成績が上がる生徒・・・6割から7割
- ②成績が変わらない生徒・・・2割
- ③成績が下がる生徒・・・1割

こんな数字です。どんなに指導工夫しても、いつもこの辺りの数字に落ち着きます。試験後に、②と③の生徒の成績が上がらない理由を当然検討します。

1. 答案内容の分析
2. 教室での学習量のチェック
3. 家庭での学習量のチェック
4. 学習姿勢
5. 学校での学習態度

1~5がすべてOKの生徒はまず、試験の点数は上がります。当たり前ですね。

次に、点数が上がらない理由が、1~5のどれに当たるかを生徒ごとに検討することが非常に大切になってきます。

教室で管理できる部分は限られます。3と5は管理できません。そして、成績の上がない生徒の大半はここに理由があります。

ということは、点数が上がらない生徒に対しては、いかにご家庭を含めて一緒に相談に乗っていただけるかがポイントになってきます。

基本的な考えとして、塾で預かっているときだけの勉強だけを取り上げて解決にならないと思います。

★ 成績アップの期限目標

4月に入会した中2生の学習カリキュラムをご紹介します。

数学は当初確認したところ、正負の数の+・-からつまずいていました。保護者と相談して、まずは

1. 中1の正負の数
2. 中1の文字式
3. 中2の式の計算
4. 連立方程式の計算
- (5. 連立方程式の文章問題) ←()の意味は、飛ばすかもしれないという意味です。

このカリキュラムで復習をしながら今学校でやっている学習にも取り組み、何とか少しでも中間テストの成果を出してやる気を育てましようという話をしました。

しかし、いざ授業を初めて見ると、中1のつまずきが予想以上に大きく、なかなか伸展しません。

そこで、成績アップの目標を期末テストまで先延ばして、カリキュラムでは応用問題を全て除外して計算問題中心に学習を進めることにしました。

数学と英語は、前学年の理解ができていないと次学年の理解はできませんので、学校の授業がますます分らなくなってしまう。早めの軌道修正をしました。

その結果、分らなくてやる気が出なかった数学でしたが、少しずつ計算ができるようになって、講師からたくさん褒めてもらえるようになり、今その生徒はがぜんやる気が出てきました。

今回の中間テストに向けてこちらが何も言わなくても、自分から積極的に取り組んでいます。

本人も私たちも結果が楽しみです。